大賞

カイコとわたしの物語

前橋市立桃井小学校　三年
新池谷　悠

わたしは、二年生の時、生まれたばかりのカイコを「日本きぬの里」の町田さんに助けてもらいました。町田さんは、カイコの病気の事も教えてくれて、「まゆはせい虫にしない方がいい。」と言っていました。でも、わたしは、自分のたん生日にまゆを作ったカイコだけは、せい虫にする事にしました。それは、まゆをすべてれいとうすると、カイコが全部しんでしまって、二度と会えなくて、かなしい気もちになるからです。その時のせい虫は、またけっこんして、たまごをうみました。

そして、今年の二月九日、そのカイコのたまごがふ化しているのを見つけました。町田さんに相談したかったけれど、町田さんの言葉を思い出すと、相談できませんでした。それで、わたしは自分で何とかカイコを育ててみる事にしました。その時の気温は、十八度でした。夏に使ったのこりの人工しりょうがあったので、あげてみましたが、ほとんど食べていない様子でした。五日ぐらいすると、体に生えている毛が少なくなり、少し白っぽいかんじになってきました。長さもはじめは、三ミリメートルだったのが、六ミリぐらいになりました。でも、その後は、ぜんぜん大きくなりませんでした。わたしは、寒いのがげんいんだと思いました。なぜなら、カイコはだんぼうをつけている時は、少し元気に動いていたけれど、朝おきた時など寒い時は、まったく動いていなかったからです。わたしは、「どうしたらカイコが元気になるのだろう。」と、考えました。そして、あたたかくしたら、元気になるかもしれないと思ったので、しいくばこのまわりに、マフラーをまいてあげました。でも、一頭いがいは、全部しんでしまいました。

三月二十四日、さい後の一頭は、一センチ五ミリぐらいまで大きくなりました。しかし、四月十五日、理由は分からないけれど、その一頭もしんでしまいました。

カイコは気温がひくいと、ゆっくりしか大きくならない事が分かりました。夏の場合は、ふかしてから一か月くらいで、まゆを作るのに、二月に生まれたカイコは、一か月たっても、二れいぐらいの大きさのままでした。わたしは、「とても長生きするのかな。」と思ったけれど、大きくならずに全部しんでしまって、かなしかったです。

四月になると、ちがうたまごからもたくさんのカイコが生まれました。わたしは、カイコがしんでしまうのは、かなしいので、また町田さんに相談する事にしました。すると、町田さんは、「カイコは、十八度いかでは、せい長する事がむずかしい事」、「古い人工しりょうは食べない事」を教えてくれました。わたしは、カイコがしんでしまった理由が分かり、「古いえさをあげて、かわいそうな事をしたな。」と思いました。

四月になって、あたたかくなった事、そのうえ、人工しりょうも新しくしたので、カイコは、前よりも元気になりました。四月十五日くらいになると、カイコのもようがはっきりとしてきました。そのもようは、レモン、黒しまでした。そのほかに、今まで見た事がない黄色に黒のしまのカイコがいました。わたしは、「新しゅのカイコかな。」と思って、少しわくわくしました。

今年生まれたカイコのおじいちゃんは、黒しまで、おばあちゃんは、レモンというカイコです。その子どもは、全部黒しまのもようをしていました。でも、まごになる今年のカイコは、色いろなもようをしていて、わたしはおどろきました。そして、黄色に黒のしまがあるカイコは、しまがあるところは黒しまのおじいちゃんに、黄色の色はレモンのおばあちゃんに、にたのかな、と考えました。レモンは、おばあちゃんにだけ、にたのかもしれません。黒しまは、お父さんとお母さん、おじいちゃんのだれに、にたのだろうと、知りたくなりました。

その後、ぐんま二百の赤ちゃんもたくさん生まれました。お兄ちゃんがたくさん助けたので、えさの入れかえやそうじをする事がとてもたいへんになりました。たくさん助けたお兄ちゃんは、カイコの世話をたまにしかしませんでした。

わたしは、毎日、お母さんといっしょに、カイコのフンを取りのぞいたり、えさをあげたりしました。二百頭いじょういたので、カイコの世話に三十分いじょうかかりました。カイコは、よう虫の時も少し糸を出していて、古いえさからなかなかはなれない時があるので、こまりました。わたしが、古いえさごと新しいえさにい動させると、お兄ちゃんは、「カイコがかわいそうだ。」と言いました。でも、お兄ちゃんはていねいだけど、毎日は、世話をしないし、世話をする時も、ほんの少しのカイコしかえさをかえていませんでした。わたしは、心の中で、「えらそうに言わないでほしいな。」と思いました。

カイコは、本当にたくさんいたので、人工しりょうがあっという間になくなってしまいました。だから、くわの葉もあわせてあげる事にしました。くわの葉は、近くの空き地に生えている物を取る事にしました。でも、このくわの木は、だれの物か分からなかったので、取る時には、少しドキドキしました。

ある日、近所のむね川さんというおじさんに、声をかけられて、わたしはびっくりしました。おじさんは、お兄ちゃんと話をしていたけれど、わたしは、早くカイコのためのくわの葉を取りたかったので、「あっちに行ってほしいな。」と思ってしまいました。でも、そこは、おじさんの土地でした。そして、おじさんは、「くわの葉を取っていいよ。」と言ってくれたので、それからは、安心してくわの葉を取れるようになりました。

わたしは、い前からカイコがくわの葉い外の物も食べるかどうかが気になっていました。町田さんに、手紙で聞いてみると、ていねいに教えてくれました。手紙には、たんぽぽやいちじくの葉を食べる事もあると、書いてありました。そこで、家のまわりに生えているたんぽ

ぽの葉を、カイコにあたえてみる事にしました。

はじめに、生まれたばかりのカイコに、たんぽぽの葉だけをあたえてみましたが、一週間ぐらいたつと、死んでしまいました。今度は、三れいぐらいにせい長したカイコにあげてみる事にしました。すると、そのカイコは、たんぽぽの葉をとてもたくさん食べました。カイコがとてもたくさんいて、人工しりょうが足りなかったので、わたしは、「えさ代がちょっと助かるかな。」と思いました。

そのほかにも、カイコに色いろな食べ物をあたえてみる事にしました。五月十日、キャベツの葉をあたえてみる事にしました。はじめは、においをかいでいるみたいに頭を動かしていて、すぐには食べませんでした。でも、時間がたつと、葉のはじっこの部分を少しだけ食べていました。わたしは、カイコがキャベツも食べる事が分かって、おもしろくなってきました。そして、「ほかにもどんな物を食べるのだろう。」と、実けんしてみたくなりました。

五月十一日は、にらをあげてみました。にらは、においもかいでいなかったし、食べることもしませんでした。わたしは、「においがきらいなのかな。」と思いました。この日は、こまつなもあげてみました。こまつなは、キャベツの時と同じように、においをかいでいて、時間がたつと、少しだけ食べていました。カイコがこまつなを食べたところは、半分のお月様のような形をしていました。そして、わたしは、カイコがいつもとはちがう緑色のフンをしている事に気がつきました。わたしは、おなかをこわすと食べた物がそのまま出てくる事があるので、カイコもこまつなを食べて、おなかをこわしているのかもしれないと、心配になりました。そして、カイコは、くわの葉い外の物も食べるけれど、それがきちんとえいようになっているかどうかは、分からないとも思いました。

五月十八日、この日はレタスをあげてみました。カイコは、頭を上下に動かして、レタスが食べられるかどうかをかくにんしているみたいでした。しばらくすると、

食べはじめて、葉にたくさんあながあきました。二時間くらいたつと、レタスの葉をほとんど全部食べていました。今までの野さいの中では、レタスを一番たくさん食べていたので、わたしは、「カイコは、レタスがすきなのだな。」と思いました。

五月十九日、今度は、ほうれん草をあげてみましたが、ほとんど食べませんでした。ほうれん草は、くわの葉とよくにた緑色をしているのに、カイコは食べませんでした。だから、わたしは、カイコは色でえさをえらんでいるわけではないと、考えました。ほうれん草は、きらいみたいなので、きのう、たくさん食べたレタスをもう一度あげてみました。

五月二十日の朝、カイコは、レタスをほとんど全部食べていました。フンは緑色で、いつもより大きくて水っぽい感じでした。わたしは、「カイコがげりしたのかな、えいようにならなかったのかな。」と、心配しました。

六月八日、白さいをあげてみると、カイコは、食べませんでした。食べないだけではなく、カイコは、白さいからにげるように、入れ物のすみっこにい動していました。そして、入れ物から落ちてしまうものまでいました。その落ちたカイコをお兄ちゃんがふんでしまいました。わたしは、ぺちゃんこになっているカイコを見て、「かわいそうだな。」と思いました。ところが、ふんだお兄ちゃんは、「落ちたカイコがわるい。」と言いはっていました。

わたしがカイコが何を食べるのかを調べる実けんであたえた物は、すべて葉っぱのなか間でした。お母さんが、「大根やにんじんもあげてみよう。」と言った時に、わたしは、「それは、ぜったいに食べないだろうな。」と思いました。六月十二日、まず、にんじんをあげてみました。はじめは食べなかったので、そのままにしておきましたが、時間がたって、カイコの様子を見てみると、カイコは、にんじんをかじるみたいに食べていました。お兄ちゃんがせんべいをバリバリ食べるようなすがたで、わたしは、本当にびっくりしました。なんだかカイ

コが人間にみたいに見えました。

六月十三日、今度は、大根をあげてみると、これもにんじんの時と同じように、かじるように食べていました。わたしは、カイコがこのようなかたい物を食べる事が分かり、大発見をしたような気持ちになりました。

わたしは、去年、カイコがまゆを作った時、まゆを切ってみました。すると、その中に、とてもかわいいよう虫がいるのを見つけました。でも、そのよう虫は、わたしがねている間に、サナギにかわっていて、とてもかなしかったです。だから、今年は、よう虫からサナギにかわるところを見とどけたいと、ずっと思っていました。

わたしは、カイコがまゆを作った時、かわいそうだけど、まゆを切って、中にいるよう虫をかんさつすることにしました。七月十八日、わたしは、一日中よう虫をみはることにしました。なぜなら、その前日、ほんの少しだけよう虫から目をはなしただけなのに、サナギにかわってしまったからです。へんしんの時間は短いということが分かったので、今日は、ずっとみはることをきめました。

でも、夜になると、わたしはカイコを見ている事につかれてきました。わたしは、「早く皮をぬいでほしいな。」と思いました。夜の八時をすぎると、かわいらしかったよう虫がかさかさしたかわいた感じになりました。よう虫の様子がかわったので、「もうすぐぬぐのかな。」と思いました。それでも、よう虫は、なかなか皮をぬいでくれませんでした。

わたしは、お父さんとお兄ちゃんに、よう虫を見ていてくれるようにたのんで、おふろに入る事にしました。わたしは、カイコの様子が心配なので、いつもより急いで体をあらいました。わたしがおふろからあがって、カイコを見ると、まだサナギにかわっていなくて、ほっとしました。お兄ちゃんたちは、テレビの野きゅうのしあいにむちゅうで、カイコを見ていませんでした。わたしがおふろからあがってすぐに、よう虫の体に、黒い一直線が出ました。わたしは、アゲハチョウのよう虫がサナ

ギにかわる前にも、この線が出たような気がしたので、「きっともうすぐぬぐのだろう。」と思って、お母さんをよびに行きました。

それからすぐに、よう虫は、体を前後に動かしながら、皮をぬいでいきました。皮を全部ぬぐのにかかった時間は、三〜四分でした。出てきたサナギは、とても明るい黄色をしていました。さわってみると、ぷよぷよして、やわらかかったです。

わたしは、この日はじめてよう虫からサナギにかわるところを見る事ができました。お兄ちゃんたちは、きちんとカイコを見ていてくれなかったので、わたしが急いでおふろからあがらなければ、へんしんの様子を見のがすところでした。わたしは、ほっとしました。

カイコがサナギにかわるところを見ることは、とても根気がいりました。でも、わたしは、七月二十四日、もう一度よう虫をかんさつする事にしました。それは、この間は、おふろに入っている間の様子をきちんとかんさつできなかったからです。よう虫は、夜になると、体がかわいた感じになってきたので、サナギにかわる「ようか」がもうすぐだと思いました。午後十時ごろ、よう虫のあし「ふくきゃく」の部分がちぢんで、短くなりました。それから、三十分ぐらいたつと、今度は、よう虫の体に白い線が出ました。その線は、おばあちゃんのしわみたいにかわいた感じの線でした。その後は、よう虫にへんかはなく、わたしは、だんだんねむくなってきました。そして、わたしは、少しねむってしまいましたが、お母さんが「もうすぐぬぎそうだよ。」と、おこしてくれました。時計を見ると、夜の十二時でした。よう虫は、顔のもようがあるところ「がんじょうもん」が、ピーンとのびた感じになっていました。よう虫は、かわいらしさがなくなり、わたしは、「だるまみたいだな。」と思いました。そして、よう虫の体に、黒い一直線が出て、がんじょうもんのところの皮に切れ目が入りました。よう虫は、体を前後に動かしながら、皮をぬいでいきました。ぬいだ皮は、小さく丸まって落ちていました。皮をぬぐのにかかった時間は、四分ぐらいでした。

わたしは、サナギになる前に、よう虫の体にあらわれるとくちょうをいくつか見つけました。まず、カイコがまゆを作ってから二日ぐらいたつと、よう虫の体がちぢんできます。次に、ようかの一、二時間前には、よう虫の体がかわいた感じになり、体のふしのところに、白い線が出ます。そして、がんじょうもんのところがはりつめた感じになり、体の横に黒い一直線が出ると、よう虫は、皮をぬぎ始めます。わたしは、「ようか」を見とどけるのは、とてもつかれたけれど、よう虫の体にあらわれるとくちょうを発見できて、おもしろかったです。

わたしは、カイコを三年間、育ててきました。カイコは、かわいいので、大すきです。でも、今年は、カイコがとてもたくさん生まれて、多くのカイコが病気になりました。病気になる前のカイコは、体にはりがなくなってしまいます。さわってみると、ぷよぷよとした感じです。だから、さわる事で、カイコが病気かどうかが分かりましたが、病気になったカイコを助けてはあげられませんでした。そして、病気のカイコは、黒くなり、つぶれたような感じで、死んでしまいました。

一頭のカイコが病気になると、ほかのカイコも病気になって、どんどん死んでいきました。わたしは、今までカイコをかわいいと、思っていました。でも、このようにたくさんのカイコが病気になった時、「気持ちわるいな。」と、思ってしまいました。病気の原いんは、よく分からないけれど、し育場所がせまかったり、えさが足りなかった事もかん係があるのかもしれません。今年は、カイコをあまり大切にかってあげる事ができなかったと思います。だから、来年は、自分が大切にできるだけのカイコをかいたいと思っています。

わたしは、カイコをかって、カイコにとてもくわしくなりました。去年は、五れいのカイコがどれだけ大きくなるのかを調べて、一日に一センチものびる時があることが分かり、びっくりしました。今年は、カイコが野さいも食べることが分かり、「おもしろいな。」と思いました。そして、一番たくさん食べたたんぽぽの葉だけでどれだけ育つかを調べてみたかったです。でも、カイコの

命を大切にしたい、カイコがえいようぶそくで死んでしまったら、かわいそうだな、とも思いました。だから、来年は、カイコが食べている人工しりょうに何が入っているのかを調べて、自分だけの人工しりょうを作ってみたいです。

カイコを育てることは、たいへんです。それでも、わたしは、カイコの顔や、さわり心地がいいところが気に入っています。だから、わたしは、カイコが大すきです。